

別府鉄道 探訪

今回は、運行最終日の出来事についてお話しします。当日はこのあたりでも珍しい大雪の降った日で、列車はその車体の上に雪を載せて走っていました。



▲特別展の表紙にもなった最終日の様子。(円尾武男氏撮影)

最終日には、鉄道ファンへのサービスとして、いくつかの車輛を駅構内の線路に静態展示していたようです。展示されていた車輛としては、前後に荷物台のある「キハ2（2代目）」、現在も資料館で展示している「DCC302」、別府鉄道が初めて自社発注したディーゼル機関車「DB201」などの姿がありました。

訪れた多くの鉄道ファンは、それらの展示車輛もまたカメラに収めたいと、危険な線路内に入りシャッターを切り続けました。一方、別府鉄道は、万が一の事故に備え、別府港駅周辺にガードマンを配備するなど、職員一丸となって運行最終日の安全を守っていました。当時の駅長さんの言葉にもありますが、「とにかく、最終日まで大きな事故もなく、乗客の皆さんを無事に目的地まで運ぶこと」を第一に考えていたのです。

そして、最終列車となったのは「さよなら別府鉄道」というヘッドマークと「別府鉄道よ永遠なれ」という横断幕で飾られた「キハ101」でした。野口駅を出発し、乗客を無事に別府港駅へと送り届けた「キハ101」が、その大役を終えて最後の汽笛を鳴らしながら車庫へと向かった時、どこからともなく拍手が沸き起こったそうです。

こうして、多くのファンと降りしきる雪に見守られながら、別府鉄道はその長い鉄道の歴史に幕を閉じました。

鉄道まめ知識

【運行最終日】

運行最終日は、兵庫県の各地で記録的な積雪量を観測した日でした。別府鉄道が「まだ走り続けたい」という「なごり雪」を降らせたのかもしれない。

*特別展の開催にあたり、多くの方からご協力をいただきました。11月6日(日)をもちまして無事に特別展を終えることができました。この場を借りてお礼申し上げます。

(郷土資料館)

播磨町花と緑の協会

広げよう 花と緑の輪

花といっしょに暮らす素敵な毎日 ②④
大中にお住まいの井澤信良さん・妙子さんご夫妻にお話を伺いました。

ガーデニングのきっかけは？

十数年前に六甲の森林植物園でアジサイを買って育て始めたのがきっかけだったと思います。そして、昨年度に「淡路景観園芸学校のまちづくりガーデナーコース」に夫婦で通い、そのころから植物と接する時間がいふん多くなりました。

園芸学校に通って良かったこととまた、その後どんな活動されていますか？
いい先生方に巡り逢えましたが、仲間づくりもでき、学校修了後も多くの仲間と親しく付き合っています。また、アルファグリーンネット(AGN)という組織に加入して、園芸学校のキャンパス案内などいろいろな活動をしています。園芸学校はいつでもだれでも自由に見学できます。皆さんもぜひお越しください。

いろんな種類の花を植えられていますか？

はい。たくさん種類を植えています。その中から一つを取り上げるとすれば、ヤマアジサイです。数十種類のヤマアジサイを、地植えや鉢植えで育てています。見ごろは5月下旬から6月初旬です。清楚な花が魅力で、日々の変化を楽しんでいます。

今後の予定は？

夫婦で花壇をいつもきれいにし、ヤマアジサイやバラなども美しく咲かせオーブンガーデンを目指したい。それと「AGN」や「淡路島公園を楽しもう会」の活動も続けたいと思っています。

失敗談や苦労したことは？

バラの黒星病に悩まされています。また、鉢植えが増えすぎて、長期旅行が出来なくなりました。両立は難しいですね。



問い合わせ 土木グループ
☎0794(35)2365
さて、これまで皆さんと「花と緑の輪」を進めて参りましたが、今月号で最後となりました。ご協力いただいた方々に改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。